Book Review

眼瞼・結膜腫瘍アトラス

後藤　浩 著

今回後藤浩先生の『眼瞼・結膜腫瘍アトラス』を読ませていただいて，「やっと出たか」というのが素直な感想です。このような眼瞼・結膜の腫瘍や鑑別が必要な疾患に関する良い教科書が今までありませんでした。

実際に外来で診療していると，さまざまな眼瞼・結膜腫瘍あるいは鑑別が必要な疾患に出合います。その頻度はそんなに低くないと思われますが，多くの眼科医は，気付かない，あるいはよくわからないので訴えがなければ気付かないふりをしていることもあるのではないかと思います。参考にすべき，良い教科書やアトラスというものは本邦ではなかったということが一因だと思います。もちろんいろいろな教科書や，シリーズとなっている本の中に本書と同様のテーマを扱っているものはありますが，本書ほどまとまってはいません。一つの症例を見て，さてこれは何なのだろうと考えるときには，参考となるような写真がまとまって出ていて，それと比較をするのが最も容易で確実な方法で，このようにまとまったアトラス形式の本というのは非常に有用です。

後藤先生の序の文章にも書いてありましたが，世界的な観点からはこの種の本は Shields 先生たちの書いた腫瘍の 2 分冊の一つである“Eyelid, Conjunctival, and Orbital Tumors：An Atlas and Textbook”（Third ed, LWW, 2015）という書籍が有名です。眼内腫瘍に関しては本邦でも箕田健生先生や大西克尚先生がわかりやすい本をお書きになっていらっしゃいますが，この眼瞼・結膜腫瘍に関してはそのような点からは落とし穴のようなところとなっておりました。実際に眼底写真を撮影することは多くても，前眼部写真を撮影することは実際に少なくまた困難で，写真を集めることも大変ではなかったかと推測します。写真に関しては Shields 先生たちの本と比較しても勝るとも劣らずきれいで，加えて日本人の症例ですので，肌の色，瞳の色などの関係から，われわれが日常診療で遭遇する症例により近いものとなっています。いわゆる腫瘍とされているものばかりでなく，鑑別が必要な疾患，あるいは注意が必要な疾患や，日ごろ診察する機会が多い霰粒腫や結膜浮腫なども紹介されています。また見落としてはいけない悪性腫瘍に関しては当然のこととして扱われていますし，IgG4 関連眼疾患などに関しても述べられており，最新の情報が網羅されているものと思われました。

個人的な好みですが，ハードカバーでないのも読者からすると扱いやすく，この本自体の本来の使い方は大学病院の図書館にあるのではなく，開業の先生の外来に置いて，必要があった場合に，その都度比較しながら診療するというのが正しい使い方かもしれません。

最後に，所々に見られる後藤先生のコラム「ひとり言」の部分もお時間のあるときに読んでいただきたいと思います。診療や治療におけるちょっとしたヒントが示されていて，また著者の後藤先生の診察時のちょっとした心の動きなども見え隠れし，面白く読めるものと思います。余談ですが，本棚に入れてみて気付いたのですが，他の教科書などと比較して高さが高く，入らない本棚があるかもしれません。ただ，この大判サイズのおかげで，鮮明な症例写真が大きく掲載されているので，多少の不便は仕方ないかもしれません。

帝京大教授・眼科学
溝田　淳

A4・頁 176　2017 年 10 月
定価：本体 12,000 円＋税
［ISBN978-4-260-03222-3］　医学書院刊

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2018

2026/11/11 09:32:18